

第22回若葉区泉地域コミュニティバス運行協議会 議事要旨

1 日時：令和3年12月5日（日） 10時00分～11時45分

2 場所：白井公民館 講習室1・2

3 出席者

委員（自治会）

第17地区連協会、高根団地自治会、高根グリーンタウン自治会、
大広自治会、新宮田自治会、北谷津自治会

第18地区連協会、中田自治会、富田自治会、小間子自治会、
大草町自治会、いずみ台ローズタウン自治会、金親町自治会

委員（千葉市）

若葉区地域振興課地域づくり支援室、交通政策課
オブザーバー

千葉県交通計画課

千葉都市モノレール(株)

社会福祉法人 泉寿会

バス事業者

千葉中央バス株式会社

4 議題

議題1 協議会オブザーバーの追加

・社会福祉法人「泉寿会」様のオブザーバーとしての参加について

議題2 安全対策上の支障があるバス停位置の見直し

議題3 利便性向上に向けた取組み

- ・バス停位置の見直し
- ・現地に応じた停留所名へバス停留所名の変更
- ・回数券制度の再導入

議題4 地域の観光資源と連携した取組みの検討

＜運行協議会会長の司会により進行＞

～主な意見及び回答～

- 平均走行速度について、時刻表が過密なのはなぜか。バスの走行速度に合わせて時刻表を組むことはできないか。
- ・コミュニティバスの平均速度に関しては、現状はダイヤが過密になっており、運行速度が一般的な路線バスよりも早くなっていることから、安全な運行のためには、ゆとりのある時刻表やバス停の配置数など適切な運行計画を作ることが今後の課題であるとの、事務局からの説明に対して協議委員より上記の質問があった。
 - ・バス事業者からは、ゆっくり走ることも可能だが、路線の運行時間が長くなるため、運転手の労働時間の関係から、運行本数が少なくなってしまう。また、運行本数を減らさないためには、バス停が増えれば止まる回数も多くなってしまうので、その兼ね合いを検討する必要があるとの回答があった。
 - ・協議委員から追加で、フリー乗車区間を増やして対応はできないかとの発言があった。
 - ・バス事業者からは、警察に確認し許可が取れた場所で、フリー乗車区間は設けているので、それを増やして対策とすることは難しい。フリー乗車区間については、交通量が少ない場所で安全上問題ないと認められた場所でのみ、運行しているとの回答があった。
- 路線が分かりづらいと思う。利用者に分かりやすい路線に変更できないか。
- ・協議委員からの上記の質問に対して、下記の回答が事務局よりあった。
ルートが分かりづらいとの意見は以前からいただいており、令和元年12月にダイヤ改正を行った際に、市や地域、事業者とともに、ルートの見直しも行っている。今後に関しても、自治会の中で運行ルート変更への案等意見をいただければ、運行協議会に持ち寄っていただき、変更の検討は行っていきたいと考えている。また、グーグルマップ上でのルート検索が可能のため、そちらを利用していただくことも案内いただきたい。
- 路線バスの利用状況について、ほとんど乗っていない路線や区間も目立っている。コミュニティバスではなく、10人乗り程度のタクシーのようなものに変更は検討できないか。
- ・協議委員からの上記の質問に対して、下記の回答が事務局よりあった。
運行時の乗車人数に関しては、通勤通学の時間の利用者も多く、10人以上乗車している時間帯もある。ただし、これからはそのような運行形態への移行検討も必要と考えられるので、この件に関しては今後の課題と認識していただきたい。

○利便性の向上に向けた取組みについて

- ・事務局より、バス停の位置見直し、現地に合った停留所名へバス停留所名の変更、回数券制度の再導入の3点について提案を行い、協議委員へ自治会内での検討をいただき、次回運行協議会での結果報告を依頼する説明があった。

○「子安神社」のバス停について「いずみ苑前」とバス停名に変更できないか。

また、今のフリー乗降区間だと子安神社のバス停の手前で区画が終わっているので、いずみ苑前で降りれるように区間の延長はできないか。

- ・オブザーバーの泉寿会より上記の発言があり、事務局より下記の回答がなされた。フリー乗降区間の対応に関しては事務局と事業者で行う、必要に応じて地域の方にも協力をお願いする。

○北谷津清掃工場の建て替えにともない、プール等のスポーツ施設を充実することやキャンプ場等の施設の検討があるなど魅力のあるエリアとなる可能性がある。それにともなって、千城台駅からのコミュニティバスの運行計画についても見直しを検討できないか。

- ・協議委員より上記の発言があり、事務局より下記の回答がなされた。ダイヤの改正やルート変更に関しては、運行協議会を通じて地域の皆様、利用者の意見を反映しながら、行ってきたところだが、地域事業者を委員等を含めることで継続的に検討できる人が増えていくのではないかという面もあり、そのような方も交えて運行計画を考えていけないか検討している。

○地域の観光資源と連携した取組みの検討への事業者からの意見

- ・千葉都市モノレールからは、観光資源の活用やモノレールを活用して千城台から先をコミュニティバスでつなげることに魅力を感じており、外から人を呼ぶために、この連携は重要と考えているので、意見等があればぜひいただきたいとの発言があった。
- ・バス事業者からは、デジタルチケットの活用や、案内パンフレットや乗換案内サービスの中でお得な切符の案内や施設の案内をすることで、外からくる人からも使っていただき易いように運行を考えていきたいとの発言があった。

○地域事業者の連携について

- ・泉寿会からは下記の発言があった。社会福祉法人の義務教育志願者の実習があるので毎年20名全前後、学生が施設を訪れる機会があり、地域のPRになる施設等があれば、その学生向けに地域情報をアピールしていくことができると考えている。また、医療関係の学生に関しては1か月程度の実習に伴

い、通勤する必要があるので、その時間帯にバスがあれば、その分利用者についても貢献できると考えている。

その他の意見等について

○大宮台小学校がなくなってしまう子供（17～18人）が小学校に通う足がない。朝、夕の時大宮小方面にコミュニティバスを循環してもらうことはできないか。現在は、幼稚園バスに便乗している。

- ・協議委員からの質問に対して、事務局より下記の回答があった。教育委員会からはスクールバスは運行しないと聞いている。幼稚園バスを使っていることも聞いている。いつ幼稚園のバスが使えなくなるか分からないと聞いているのであれば、運行協議会の中でも、今後の課題として継続して検討していきたい。